

* 今年4月に就任した鈴木文雄岩手県立図書館長に、今後の抱負などを聞きました。

岩手県立図書館の今後の抱負は？

岩手に関するのであれば、岩手県立図書館に来れば全てわかる、そのような図書館を目指していきたいと考えている。そのためには資料の充実、レファレンス機能の向上、調べる場の提供という3つの点に重点を置き、力を入れていきたい。

また、都道府県立として初めて指定管理者制度を導入したことで、全国的に注目を集めている。この体制を軌道に乗せ、利用者へのサービスや市町村図書館支援の充実につなげていくことを今後も重視していきたい。

施設面でも機能面でも新しくなり、県民の皆様から大きな期待を寄せられている。それに応えていくためにも一層努力していく。

市町村立図書館への支援について

市町村図書館等に対する支援強化策の一環として、4月から県内の市町村立図書館の訪問をしている。そこで職員の方々に話を聞き、館内を見学して感じることは、どの図書館も非常に清潔感があり、図書も利用者も非常に大切にしているという雰囲気にあふれていること、職員の方々が本当に図書館のことが好きで一所懸命に頑張っていることである。このことから“地元で愛されている図書館”ということが伝わってきて、こちらが元気をもらってくることが多い。

一方で各図書館とも現状は様々だが、いずれも厳しい中での運営ということを知り、県立図書館として市町村立図書館の支援体制の強化に努めていきたいと考えている。具体的には、団体貸出・協力貸出の促進、ネットワークの構築、職員のスキルアップのための研修制度の充実などである。

図書館についての印象、本との思い出

図書館というと、自分では入手が難しい本などが読める場所、たくさんの本と出会える場所という印象を持っている。

岩田豊雄著『海軍』は、人に貸したりしてなくしてしまっても、何度も買ってしまうくらいに感動した本で、本棚にずっと置いておきたい、お墓に共に持っていきたい本のひとつである。

岩手県民情報交流センター(アイーナ) 指定管理者
岩手県立図書館 運営業務担当総括

木俣 康之

* 岩手県立図書館運営業務担当総括に、これまでをふり振り返り今後の抱負について聞きました。

「指定管理者」として(株)図書館流通センターが岩手県立図書館の業務を担当して約1年半になります。この間、この制度を導入された岩手県、また岩手県内の市町村図書館のご期待に添える仕事をして来られたかどうか、自問自答をする日々です。

岩手県立図書館での「指定管理者制度」の特徴は 都道府県立図書館では初めての導入であること。図書館の規模が大きいこと。県職員と業務を分担しあうこと、などがあります。

また、これらのこととは別に「アイーナ」という大規模複合施設内に設置された図書館であることも、業務を遂行する上では大きな要素になっています。

指定管理者として先ず最も重要なことは、業務をスムーズに継承するという点です。この点のご心配、ご迷惑をおかけすることも多々あったかと思いますが、何とかクリアできたのではと思っています。

継承すべき業務には、直接図書館に来館される方への資料の貸出・返却、案内、レファレンスなどとともに、市町村を通しての県民への協力貸出、協力レファレンス、また団体貸出、その他の市町村支援実務があります。市町村図書館の皆様には、指定管理者の“顔”が見えなくて、戸惑われた向きもあったかと思いますが、時間が経つにつれ、良い関係になりつつあるように思います。特にこの4月から、毎月、県内各市町村図書館の巡回訪問の際に指定管理者スタッフも参加することで、個々の職員とのフェイス・トゥ・フェイスの関係が生まれ、この業務への強い後押しになっております。

県立図書館という立場ですので、県域全体へのサービスが求められます。幸いなことに、岩手県立図書館はアイーナという大きな複合施設のなかにありますので、アイーナ内の他施設に来たついでに図書館に来られる方も多く、昨年10月のアンケートの統計では、来館者の23%が盛岡市外の方で、初めて来たという方が19%になりました。県内のかなり広範囲の地域から来館していることが推測されますが、各地域から初めて来た方に、その後も市町村図書館をとおして、県立図書館のサービスが受けられることを周知し、県域全体の利用者拡大に一層努力したいと思っています。

今後とも、皆様のご希望、また忌憚のないご意見を是非、お寄せください。